

8月 おもなよてい *変更があることもあります

9	水	19:00	灘手 人権問題講演会	21	月	9:15	部落解放中部地区 中学3年交流会
30	水	17:00	西中学校地区学習会	31	木	17:00	小鴨小学校地区学習会

同和教育町内学習会 おすすめ人権啓発DVDの紹介



○いわれなき誹謗中傷との闘い
スマイリーキクチと考えるインターネットに
おける人権

根拠のない誹謗中傷により、20年以上にわたって被害を受けるという経験をしたスマイリーキクチ氏の事例をもとに、ネットの誹謗中傷の現実と対策、そして人権的な課題について考える。本人の口から語られるネットでの中傷の実態はたいへんリアルなものであり、恐怖感すら覚えます。ネット社会における人権について深く考えさせられる作品です。

(時間 20分・2021年作品)

○部落の心を伝えたいシリーズ第32巻
ネット差別を許すな ~川口泰司~

爆発的に拡散され続けるデマや偏見。『部落地名総鑑』がネット上でバラまかれ、部落と部落出身者を「暴き」「晒し」続ける差別扇動が起きています。

現在も各地で精力的に講演活動続ける一般社団法人山口人権啓発センター事務局長の川口泰司さんが情報化社会における部落差別の現状や特徴について、ネットの特性を踏まえてわかりやすく解説。何が問題で、どう解決するのか、筋道を示す作品です。(時間 28分・2019年作品)

部落解放研究第51回倉吉市集会が開催されます

どなたでも参加できます。市集会にぜひおいでください。

- 1 日時 8月27日(日) 午前10時~午後3時 (受付開始 午後9時30分~)
- 2 会場 倉吉未来中心、倉吉交流プラザ
- 3 研究主題 「『人権』って何だろう。私の人権とは、あなたの人権とは」
~お互いを認め合い、安心して暮らせる人権尊重のまちづくりをめざして~
- 4 講演会 テーマ 人とのつながりから考える人権
講師 田中 響 (鳥取看護大学看護学部)
- 5 分科会 統一テーマ:「だれにでも、いつでも、どこでも同じ人権」
 - 1 地域社会と人権 倉吉未来中心 小ホール
 - 2 子どもの権利と人権 倉吉未来中心 セミナールーム3
 - 3 同和問題 倉吉交流プラザ 視聴覚ホール
 - 4 少数者の人権 倉吉未来中心 セミナールーム7
 - 5 ハラスメント 倉吉交流プラザ 第1研修室

6 日程	9:30	10:00	12:00	13:00	13:30	15:00
	受付開始	分科会 (120分)	休憩 (60分)	開会式 (30分)	講演会 (90分)	



人ある限り人権を



発行 やまびこ人権文化センター

住所 倉吉市中河原772-6 電話・FAX 0858-28-4265

E-mail yamabiko@ncn-k.net

人権問題講演会 開催しました

7月14日(金)、小鴨地区同和教育研究会、やまびこ人権文化センター他の共催事業として人権問題講演会を開催し、鳥取県隣保館連絡協議会会長の川口寿弘さんが「部落問題の解決に向けて」と題した講演を行いました。この講演会は、部落解放月間中の啓発活動として、また、これからスタートする各自治公民館での町内学習会で活かしてもらおうと開催したものです。

講師の川口さんからは、県の調査から「差別言動を指摘した」と回答した人が3割あったことを評価し、なぜ行動出来たのかを調べて啓発活動の強化につなげていくこと、これからの啓発活動は、いつものメンバーだけでなく、大学の先生や企業などに協力してもらうことも必要なことなど差別解消に向けた熱い思い、そして部落差別解決への方法は何十年も前から変わっていないので、新たな解決方法をみんなで考え、実践して欲しいとのお話をいただきました。



川口 寿弘さん

参加者の感想(アンケートより)

・改めて学ぶことができて良かった。人権問題は人の心の問題なので、社会全体が共通認識を強くすべきだと感じました。

・わかりやすく希望の持てる話でよかった。今後も啓発や学習が大切であり継続していくことや新たな視点が必要だと思いました。

・「水平社」の名前は知っていたが、内容は知らなかった。大変勉強になった。



あなたは、どう考える？感じる？



倉吉市人権・同和問題に関する意識調査の結果

自分とのかかわりについて

Q：同和問題とあなた自身とのかかわりについて、あなたの考えをお聞きます。

選択項目	市全体	小鴨地区
1 自分自身の問題としてその解決のために努力したいと思う	16.8%	12.8%
2 同和地区の人々の気持ちや立場をもっと理解したいと思う	23.4%	34.6%
3 自分自身の問題として捉えられず、同和問題の解決には消極的	26.4%	25.0%
4 立場上取り組んでいるだけだと思う	6.1%	3.8%
5 自分は差別意識を持っていないので、自分には関係のない問題	15.7%	10.3%
6 同和問題は同和地区の人たちの問題だから、自分とは関係のない問題	1.2%	1.3%
7 その他	7.3%	7.7%
8 無回答	3.1%	3.8%

同和問題と自分とのかかわりについては、「3 自分自身の問題としてとらえられず、同和問題の解決には消極的だと思う」(26.4%、小鴨は25.0%)が最も高く、次いで「2 同和地区の人々の気持ちや立場をもっと理解したいと思う」(23.4%、小鴨は34.6%)、「1 自分自身の問題としてその解決のために努力したいと思う」(16.8%、小鴨は12.8%)が高い。「1 自分自身の問題としてその解決のために努力したいと思う」「2 同和地区の人々の気持ちや立場をもっと理解したいと思う」として、問題解決に対し積極的な回答の合計は40.2% (小鴨は47.4%)であるが、「3 自分自身の問題としてとらえられず、同和問題の解決には消極的だと思う」「4 立場上取り組んでいるだけだと思う」「5 自分は差別意識を持っていないので、自分には関係のない問題だと思う」「6 同和問題は同和地区の人たちの問題だから、自分とは関係のない問題だと思う」として、問題解決に対し消極的な回答の合計は49.4% (小鴨は40.4%)であった。前回(平成24年度)の数値では、「積極的な人」の割合が39.9% (小鴨は41.8%)、「消極的な人」の割合が48.1% (小鴨は45.9%)となっている。



町内学習会で目指そう「人権文化のまちづくり」

人権尊重の理念が日常生活の中に定着すること。

これは、日常生活の中で、お互いの人権を尊重することを自然に感じたり、考えたり、行動することが定着した生活のあり様そのものを言います。

例えば、混んだバスや列車でお年寄りや身体の不自由な方に出会ったときに、自然に席を譲る行動を取ることであり、雨の日に車で歩行者に出会ったときに車のスピードを落として、泥水がかからないように相手のことを考えた行動を取ることで、人権尊重の定着は、日常生活の中で誰でも出来ることで、決して難しいことではありません。

差別行為への対応について

Q：あなたの周りや親しい人との間で、同和地区の人々に対する差別的な発言や行為を直接見聞きした場合どうされますか。

選択項目	市全体	小鴨地区
1 差別的な発言や行動をした人の考え(間違い)を正すよう努力する	23.8%	16.7%
2 一応間違いは指摘するが、あまり深入りしないようにする	41.2%	50.0%
3 気まずくならないよう、そのままにしておく	15.7%	9.0%
4 身近な人や関係機関に相談する	8.9%	14.1%
5 その他	6.3%	5.1%
6 無回答	4.1%	5.1%

最も高いのは「2 一応間違いは指摘するが、あまり深入りしないようにする」(41.2%、小鴨は50.0%)で、次いで「1 差別的な発言や行動をした人の考え(間違い)を正すように努力する」(23.8%、小鴨は16.7%)、「3 気まずくならないよう、そのままにしておく」(15.7%、小鴨は9.0%)が高い。「4 身近な人や関係機関に相談する」(8.9%、小鴨は14.1%)と合せて、部落差別を許さない人権擁護の行動をする人は約三分の一である。(市意識調査報告書 概要版より抜粋)



今回は、「あなた自身の差別や人権侵害について」

「過去5年間の学習機会について」掲載します。

やまびこ人権文化センター運営委員会を開催しました。



去る6月9日に本センターの運営委員会を委員15名の出席のもと開催しました。新たな委員の方に委嘱状を交付した後、令和4年度の事業報告と令和5年度活動方針及び事業計画が承認されました。

委員からは、事業報告での不明な点や新たに取り組む相談事業の内容、センターの予算、教室への参加人数について質問やご意見をいただきました。この運営委員会での決定に基づき、今年度の人権文化センター事業を行っていきます。